

ブドウのクワコナカイガラムシ防除の効率化(H29~31)

研究機関: 果樹試験場

現 状

問題解決後

- ◆ 被害: 果房内への寄生による商品性の著しい低下。
H26被害面積 230ha 「山梨県植物防疫年報」より
- ◆ 背景: 生態に不明な点が多く、被害が抑えきれしていない。高級品種において出荷期間を拡大する技術が注目されており、今後、栽培の長期化に伴う被害拡大のおそれがある。
- ◆ 「フェロモンの活用による発生予察」や「樹幹塗布による薬剤防除」など、新技術による環境に優しい高効率な防除が求められる。

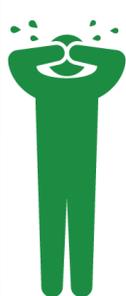
- ◆ 被害: 効率的防除により減少。安定したブドウ生産に貢献。
H26 県内ブドウ栽培面積 4,150ha 生産額 25,499百万円
「山梨県農業及び水産業生産額実績」より
- ◆ 環境保全型農業への貢献: 物理的防除法を併用しながら、生態に即した最小限の農薬投入による防除の実現。樹幹塗布技術による薬剤の飛散・流亡の軽減。

被害: 果房内への寄生

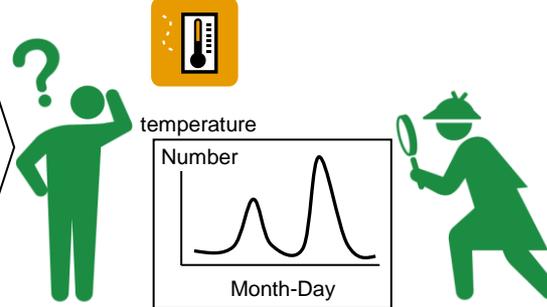
商品性の著しい低下
産地のイメージダウン



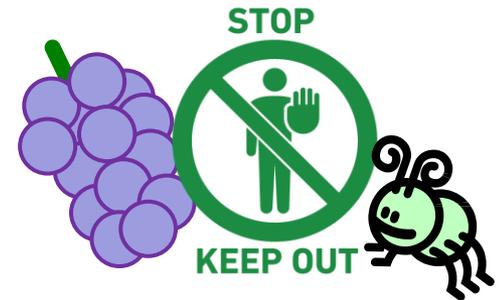
体長
ふ化幼虫: 0.35mm
雌成虫: 4mm



本課題: 発生生態の解明と効率的な防除法の確立



ふ化幼虫発生消長の
予測と観察



果房内への侵入経路の解明と
物理的侵入阻止法の開発

成果: 被害軽減・生産の安定化

品質UP! 収入UP!
環境に優しい農業を実現



防除体系
の確立



防除薬剤の効果
を検証



樹幹塗布による
薬剤処理法の検討